

教授に就任して

新潟大学大学院医歯学総合研究科 組織再建口腔外科学分野教授に就任して

新潟大学大学院医歯学総合研究科
組織再建口腔外科学分野 小野重弘



このたび、令和7年12月1日付で新潟大学大学院医歯学総合研究科組織再建口腔外科学分野の教授を拝命いたしました小野重弘と申します。身に余る光栄とともに、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。このようなご挨拶の機会を賜りましたこと、まずは心より御礼申し上げます。

私は佐賀県出身の九州男児でございます。高校・予備校時代までを九州で過ごし、1992年に広島大学歯学部に入學いたしました。学生時代は硬式庭球部に所属し、ほぼ毎日、仲間とコートに立つ日々を送っておりました。全日本歯科学学生総合体育大会、いわゆるオールデンタルでは、チームメイトにも恵まれ、団体3位という成績を収めることができました。当時の大会会場は軽井沢で、宿舎は「ふじみ荘」でした。そこが6年間にわたり、新潟大学歯学部硬式庭球部の皆さんと同じであったことを、今でもよく覚えております。四半世紀以上の時を経て、その新潟大学で教室をお預かりすることになり、不思議なご縁とささやかな運命のようなものを感じております。

1998年に広島大学歯学部を卒業し、同歯学部28期生となりました。新潟大学とは学部設立が同じ年であるため、この点は自己紹介の折にたびたび話題にさせていただいております。大学卒業後は口腔外科学第二講座の大学院に進学し、直ちに広島大学医学部第一病理学教室において、消化管の

分子病理学を基盤とした研究に従事いたしました。研究・教育に加え、膨大な病理診断業務を担う第一病理の一員として、諸先生方から研究者としての姿勢や大学人としての在り方を、厳しく、かつ温かくご指導いただきました。その後、第一病理で得られた知見を口腔癌の研究へと応用し、博士（歯学）の学位を取得いたしました。学位取得後は広島大学病院において臨床研修を行い、口腔外科医としての第一歩を踏み出しました。

母講座である広島大学大学院口腔外科学教室に復帰してからは、抜歯や炎症性疾患といった一般的な口腔外科疾患から、顎顔面外傷、顎変形症、口腔癌および顎骨再建、顎関節疾患、インプラント治療に至るまで、幅広い症例に携わってまいりました。大学病院として多くの紹介患者さんを受け入れる中で、各診療科や関連病院との連携の重要性を日々実感しつつ、チーム医療の一員として診療に従事してきました。2011年にはドイツ・ハノーファー医科大学口腔顎顔面外科学教室に臨床留学する機会を頂き、顎顔面領域における先進的な外科治療やチーム医療の在り方を学ぶ、かけがえのない経験を得ることができました。帰国後は外科矯正治療に軸足を置き、全国の第一線でご活躍の先生方のご指導を賜りながら、口腔外科専門医・指導医、国際口腔顎顔面外科専門医の資格を取得し、今日に至っております。

私どもの組織再建口腔外科学分野は、歯学部創設期から続く伝統ある教室であり、顎変形症、腫瘍、口唇口蓋裂、顎顔面外傷、閉塞性睡眠時無呼吸症、インプラント関連の骨造成など、多岐にわたる顎顔面疾患を対象として診療と研究を行ってきました。とりわけ矯正歯科と連携した外科的矯正治療においては、本邦有数の症例数と実績を有し、歴史と伝統を誇る外科矯正治療の拠点の一つであると自負しております。この伝統ある分野をさらに発展させるべく、教室員一同、力を合わせて研鑽を重ねてまいりたいと思います。

新潟での生活はまだ始まったばかりですが、日本海と信濃川が作り出す風景、新潟ならではの文化や人の温かさに、日々新鮮な刺激を受けております。日本海側の広い医療圏を担う大学としては、多様な地域から患者さんを診察・治療することは、大きな責任であると同時に、新たな学びの機会でもあると感じております。

今後の抱負としては、第一に診療面では、顎変形症、腫瘍、口唇口蓋裂、外傷、睡眠時無呼吸症など、従来から本教室が強みとしてきた領域を一層充実させてまいります。そのうえで、医科系・歯科系各診療科、市中病院歯科口腔外科、一般歯科医院、矯正歯科、歯科麻酔科、看護部、リハビリテーション部門などとの連携をさらに深め、安全で質の高い医療を安定して提供できる体制の維持・発展に努めていきたいと考えております。

第二に研究面では、これまで本教室で推進されてきた再生医療や顎変形症、口腔癌、睡眠時無呼吸症などに関する基礎・臨床研究を大切にしつつ、三次元画像解析やデジタル技術、機能評価法なども積極的に取り入れ、形態変化と機能変化を客観的に捉える視点をいっそう強化していきたいと考えております。将来的には、国内外の研究機関とも連携しながら、新潟大学発の臨床研究成果を世界に向けて発信できるよう、教室員とともに一歩一歩着実に歩みを進めてまいります。

第三に教育においては、全国的にいわれる「外科離れ」が指摘される中で、外科治療の魅力と責

任の大きさ、そして患者さんから学ぶことの大切さを、学生や若手歯科医師に丁寧に伝えていきたいと考えております。学生教育では、口腔外科の基礎知識と手技に加え、医療安全、倫理、多職種連携といった視点も含めて、総合的な臨床能力を育むことを目標とし、研修医・大学院生教育では、確かな専門性と豊かな人間性を併せ持つ口腔外科専門医の育成をめざしてまいります。その過程において、自らが口腔外科医として学び、支えていただいた経験を活かしつつ、一人ひとりの成長に寄り添う教育を心がけていきたいと存じます。

これまで長年にわたり身を置いた広島から、日本海側の新潟へと拠点を移すことは、大きな環境の変化ではありますが、広島大学で培った経験と、新潟大学組織再建口腔外科学分野の伝統を融合させながら、教室員と力を合わせて、新潟大学歯学部および地域医療、口腔外科医療の発展に微力ながら貢献していきたいと考えております。これまでお世話になりました諸先生方への感謝の気持ちを決して忘れることなく、新たな環境で一から学び直す覚悟で、日々診療・教育・研究に向き合っていく所存です。

末筆ながら、組織再建口腔外科学分野および口腔再建外科に関わるすべての先生方に、あらためて深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。